日刊 動労千葉

82.6.26

No.1080

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

総評3顧問（市川氏・岩井氏・太田氏）が呼びかけた

『総評の再生をめざす6・24集会』開かる

東京 千代田公会堂

動労千葉『四つの視点』を圧倒的情宣で訴えて、参加

6月24日、市川誠氏、岩井章氏、太田薫氏の総評三顧問が呼びかけた「労働戦線の右翼再編に反対し、たたかう総評の再生をめざす6・24大集会」が、東京・千代田公会堂に千二百名を結集して開催された。

動労千葉は50名で参加するとともに、三里塚・国鉄をめぐる階級決戦に勝利することが、右翼労戦「統一」＝総評労働運動解体＝産報化攻撃を真にうち破って進む道であることを全参加者に鮮明に訴えた。

（右翼労戦「統一」）総評解体＝産報化は、軍大化攻撃そのもの

日本帝国主義の軍事大国化・改憲・アジア侵略にむけた労働運動圧殺攻撃の中で、今、総評は解体の危機に直面している。すなわち、資本の意を体した同盟・JCによる右翼労戦「統一」という総評解体攻撃に、総評指導部が完全に屈服しなだれ込むことによって、再び労働者を戦争への道へかりたてる産業報国会の役割をはたそうとしているのである。

集会は、「日本の労働運動は深刻な危機に直面し、総評労働運動は産業報国会的な団体へと変質させられる危機に直面している。戦争の危機が迫っている今、どうするかが問われている」との市川氏の主催者代表あいさつではじめられた。

続いて岩井氏より「現在の総評の路線の誤りと影響力の喪失は、第一に春闘など経済闘争に十分な指導をしてこなかったこと、第二に社公路線に執着した政治路線、第三に右翼労戦「統一」に参加しようとしている点にある。総評はナショナルセンター第二位の地位にあぐらをかいつつあり、ここまできたら組織体をつくらねばならない。考え方の大きな流れを受けとめて、各単産・グループで検討してほしい」との問題提起が行われた。

これを受けて多くの単産・単組・県評や文化人等からの発言がなされた。

三里塚を闘う労働運動こそ、唯一の勝利への道

＝ますます鮮明になった動労千葉の路線の正しさ

動労千葉が一貫して主張してきたように、右翼労戦「統一」攻撃を粉砕する道は、第一に、軍事大国化・改憲攻撃と真向から対決する労働運動をつくりあげるという事である。第二に、従って既成の労働運動勢力の単なるカードの組み合わせに期待を託すのではなく、既成の運動の破産を根本から乗りこえて闘う自前の労働運動・真に階級的な労働運動を創り出していく立場こそが重要である。第三に、総評模索―富塚方針全面支持＝「基本構想」大賛成・全的統一なる反動方針を掲げるのみならず、今日臨調攻撃の最先兵となって、職場からの反撃の闘いを圧殺してまわり「働こう運動」なる第2マル生運動を全面展開している動労「本部」革マル反動分子を全労働戦線から粉砕・一掃する闘いに決起していくことである。第四に、日本労働運動の戦闘的再生・発展の道は、軍大化・改憲攻撃の突破口たる三里塚二期攻撃を労働者・人民の総決起で粉砕することによってきりひらかれる、という事である。三里塚を闘う労働運動と、その全国的潮流の力強い前進こそ、右翼労戦「統一」を真に粉砕する力だという事である。

われわれは、集会に参加した全ての人々に、この「四つの視点」に基づく主張を鮮明に訴えた。

臨調七月基本答申粉砕！

右翼労戦「統一」の先兵＝臨調攻撃の先兵＝「働こう運動」の動労革マルを一掃せよ

そのためにも右翼労戦「統一」攻撃と表裏一体の攻撃としての臨調七月基本答申＝その基軸としての国鉄労働運動圧殺・解体の攻撃に全力あげて反撃しよう。そして同時に日本階級闘争の最も戦闘的軸・人民の闘う砦たる三里塚を守り・拡げ・勝利する闘いにしっかりと結合して闘うことである。

三里塚・国鉄をめぐる階級決戦に勝利しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！